

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

371号

2022年新年号

자주

発行 在日韓国民主統一連合  
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

## 新年辞 歴史は後退しない、希望の2022年を

韓統連大阪本部代表委員 金隆司(キム・ユンサ)

賀  
新  
年  
護

在日同胞の皆さん、日本の友人の皆さん、新年明けましておめでとうございます。

旧年中、韓統連大阪本部にご支援をいただきました

すべての皆さんに、あらためて感謝を申し上げ、新年のご挨拶を申し上げます。

## ◆去年を振り返って

昨年も新型コロナが猛威を振るい、東京オリンピック開催中の8月には首都圏と大阪で医療崩壊が起き、多くの方が自宅で亡くなりました。感染を収束させるためには、世界規模でのワクチンの不平等(格差)を解決する必要があります。「世界不平等報告書2022」によると、世界上位10%の富裕層が所得全体の52%と資産の76%を占有しており、上位1%の人々だけで世界全体の38%の富を支配しています。富裕層の貯めこんだ「蔵」を開放して、不平等に苦しむ貧困層の苦痛を癒さなければなりません。

米国では昨年1月にバイデン新政権が発足し、トランプ政権の「米国第一主義」から「国際協調」路線への転換を表明しました。朝鮮は第8回党大会(1月)で「強対強、善対善(対決なら対決、対話なら対話)」の対米方針を確認しましたので朝米関係の進展が期待されましたが、韓米合同軍事演習の実施により対話は実現しませんでした。

この状況を打開するためには、「わが民族の運命は自ら決定するという民族自主の原則を確認」した、板門店宣言を韓国政府が勇気をもって実行する以外にありません。

日本も菅政権から岸田政権へと交代しましたが、

対朝鮮政策、対韓国政策は旧態依然です。

韓日関係の改善のために、そして日本がアジアの真の

友となるために「日本には過去を直視して、歴史を恐れる真の勇気が必要である」という故金大中元大統領の言葉を岸田首相に送ります。



## ◆統一マダンで大統領選挙の祝杯を

今年の3月に大統領選挙があり、キャンドル革命で誕生した文在寅政権も5年の任期を終えます。平昌オリンピック、板門店南北首脳会談、シンガポール朝米首脳会談、平壤南北首脳会談など、朝鮮半島の平和と統一が大きく花開いた2018年から4年が経ち、現状に落胆している人がいるかもしれませんが、歴史は長い目で見れば後退しません。そして、何よりも歴史は民衆の意志によって動きます。私たちがあきらめない限り、歴史は前進し、朝鮮の平和と統一は必ず実現します。

2022年は大統領選挙に勝利し、平和と統一をまた再び大きく前進させなければなりません。

その主役は、分断の被害を最も受け、統一の恩恵を最も受ける私たち日同胞です。

今年は3年ぶりの統一マダンを準備しています。

大統領選挙の勝利の喜びを、統一マダンで皆さんと分かち合えることを楽しみにしています。

新年が皆さんにとって幸多い年になることを祈願し新年の挨拶にしたいと思います。

今年もどうぞよろしくお祈りします。

新年明けましておめでとうございます。

「自主(チャジュ)」2022年新年号では、日頃から韓統連大阪本部と連帯関係にある各界の方々から、新年辞を送って頂きましたので、紹介させていただきます。

## 2022年新年辞

### 在日韓国良心囚同友会代表 李哲(イ・ Chol)

新年を迎え、自主読者の皆様に在日韓国良心囚同友会よりご挨拶を申し上げます。

世界中で猛威を振っているコロナが日本では消えてしまったような報道の中、新たにオミクロン株の流行が心配され、今年もまたコロナの1年になろうとしています。

韓国の文在寅政府は2017年の登場以来、検察改革を進めてきましたが、検察改革か、反改革かの闘いは、いよいよ天王山を迎えることになりました。今年3月の大統領選挙は「共に民主党」の李在明(イ・ジエミョン)候補に対して、検事総長であった尹錫悦(ユン・ソギョク)候補の選対本部には何と25名の検事出身者が布陣され、あたかも「検察党」の様相を呈しています。今回の大統領選挙は第4の民主政府を出帆させるのか、あるいは文在寅政府が進めてきた民主改革を振り出しに戻すのかという、とても重要な選挙となります。今回は反民主勢力も命運を賭け、総力がかかっているため予断を許さない状況ではありますが、私たちは必ず勝利しなければなりません。

文在寅大統領は今、政権の最後の仕事として朝鮮半島の「終戦宣言」実現のために最大の努力を傾けています。私たちは南・北・米・中が署名する終戦宣言が締結され、朝鮮半島に平和が定着するよう声を上げていかなければなりません。

また、ご存じの方々も多いと思いますが、私たちは昨年10月に、新たに金炳柱(キム・ビョンジュ)先生と孫裕炯(ソン・ユヒョン)先生の再審無罪を勝ち取ることができました。孫裕炯先生の場合は検察



の上告により今、大法院に係留されていますが、年明け早々無罪判決が下りるものと確信しています。

同友会は昨年秋「第2次真実和解委員会」に対して、まだ再審ができていない30数名の方々の調査を依頼しており、今後も多くの方々の名誉が回復されるよう頑張っていくつもりです。

最後にこの場をお借りしまして、私の獄中記『長東日誌』を読んで頂いた多くの方々に深い感謝を申し上げます。

同友会は今年も皆様とともに進んでいく所存です。今年もよろしく願いいたします。

## 東アジアの平和を構築しよう！

### 日韓平和連帯共同代表 山元一英

新年、あけましておめでとうございます。

昨年は戦後最悪とも言われる日韓関係が解消されず、また米中関係の対立激化に伴い、琉球諸島での軍事基地建設、日米軍事一体化が強化されるという憂うべき1年でした。

長引くコロナ禍で日韓民衆の肌を突き合わす国際交流も中断を余儀なくされ、大衆的運動も制限され続けました。しかし、私たち民衆の叫び声は途絶えることはありません。朝鮮学校無償化の闘い、日本の植民地支配と過去清算の取り組み、日米・韓米軍事同盟強化に反対する闘い、日朝国交正常化、南北の平和統一の運動は、やむことなく闘われています。とりわけドキュメンタリー映画「私はチョソンサラムです」上映運動は多くの日本人、在日コリアンに感動を与え、大きな成功を収めたと思います。

今年3月には韓国大統領選挙があり、引き続き民主・進歩勢力の候補が勝利し、民衆主体の人権・民主主義・南北の平和統一などの政治課題が前進するのか、反共保守勢力候補の復活により、韓米軍事同盟強化や朝鮮敵視政策などの反動政治を許すのか重要な政治決戦を迎えます。



また日本も秋には参議院選挙を控え、岸田自公連立政権及び維新勢力の改憲策動を許さず、野党勢力の伸長を勝ち取ることができるのか大切な選挙戦を控えています。

日本と韓国社会が、さらに民主主義的変革を推し進め、東アジアの恒久平和を実現するため、日韓民衆の連帯はますます重要となっています。今年も共に前進しましょう。

## 異常なまでの排外主義

日朝国交正常化の早期実現を求める  
市民連帯・大阪 共同代表 大野進

昨年末、京都宇治の在日朝鮮人が居住するウトロ地区の放火犯が逮捕されました。犯人は以



前にも名古屋の民団を放火した22歳の青年でした。この若さでこんな事に及ぶには周囲の影響が多大で、すなわち朝鮮人嫌悪がそうさせたのです。また岸和田の富士住宅では社長の指示で、朝鮮人や中国人を差別するビラを恒常的に配布し、あるいは歴史教科書の選定のときに社員を動員してアンケートを書かせ、育鵬社などの反動的教科書の推薦の指示をしていました。そこに社員として勤務していた在日韓国人の女性は、長年の屈辱に精神的に病み耐えかねた結果、堺地裁に提訴しました。

裁判長の中垣内健二氏は人権蹂躪であるとして慰謝料の支払いを命じましたが、その時の光景は会社と支援者は拉致バッジといわれるブルーリボンを全員が付けていて、それを外すように命令されたことに憤慨し、問題をすり替え、今度は中垣内裁判長を告訴しました。同時期に国会で稲田朋美などに関連質問をさせるなどもしています。

ようするに日本人のほとんどが反対していないブルーリボンであることを、国にお墨付きを得ようとするものでした。答弁は残念ながら知り得ませんでした。

大阪市において、昨年12月10日からの拉致啓発週間では、市職員にブルーリボンの着用を指

示するなど、過去にない事態がありました。これらは維新の躍進と大きく関係しています。また安倍晋三の中国敵視発言が毎日のように見受けられますが、日本のナショナリズムが早いスピードで広がっています。

日朝市民連帯の闘いの主眼は日朝国交正常化にあります。同時に在日外国人の権利擁護、ナショナリズムとの闘いを抜きには達成できないと感じます。共にがんばりましょう。

日韓労働者の闘いを団結連帯闘争で推し進め、朝鮮半島の平和統一に向け運動を進めましょう！

おおさかユニオンネットワーク代表  
西山直洋

新年あけましておめでとうございます。

日本では安倍から始まる極右自公政権と闘っていますが、労働者・民衆の力で政権交代を成し遂げることが、いまだにできていない状況です。

また今回の衆議院選挙においても労働者・民衆の力で政権交代を果すことができないどころか、大阪では維新に席卷され続けています。

韓国でもキャンドル革命以降、民主政権が確立するも、現在では労働組合が各地でゼネストをするなど、日韓ともに政治は労働者・民衆のものになっていない状況が続いています。

アメリカのアジア侵略は朝鮮半島の分断を維持して経済・軍事を支配し、朝鮮半島の平和統一への道が閉ざされています。日韓両政府は今こそ対米従属から脱却しなくてはなりません。

そのことから今、国内で求められているのは過去の植民地支配、慰安婦問題、徴用工問題などの反省と真の謝罪と補償を早急に日本政府が行わなくては、東アジアの平和への道を切り広げることにはできません。そして在日朝鮮人に対する差別、初級・中級・高校への補助金カット、無償化対象からの排除を直ちに撤回し、朝鮮民主主義人民共



和国への制裁をやめ、正しい姿勢なくして日朝国交正常化に向けた話し合いにはなりません。

そのような中、日本国内においては課題がたくさんありますが、おおさかユニオンネットワークとして、本年も韓統連大阪本部の皆様が朝鮮半島の自主的平和統一に向け、奮闘されることを期待し、共に連帯していくことを誓い、新年の挨拶とさせていただきます。

## 改憲と大軍拡をとめよう！

### しないさせない戦争協力

関西ネットワーク 共同代表 中北龍太郎

衆院選は自民絶対多数獲得、野党共闘でも野党は敗北、維新伸長という結果に終わり、衆院における改憲勢力は77%に達しました。これにより一気に改憲の



動きが強まることになりました。自民党は憲法改正推進本部を憲法改正実現本部に改組しました。岸田首相は「憲法改正を進めるため、国民的議論のさらなる喚起と国会における議論を進める、任期中の実現をめざす」と明言しました。日本維新の会は来年の参院選と同時に改憲の国民投票を行うと主張し、国民民主党と憲法審査会の議論を加速させると合意しました。

改憲と大軍拡がセットで迫ってきています。軍事費をGNP2%＝11兆円に増額する大軍拡が自民の選挙公約に掲げられました。もう一つの大軍拡の動きは敵基地攻撃能力保有の一般方針化です。すでに護衛艦「いずも」の空母化など先取りの実態が先行しています。こうした実態を一般方針化してさらなる拡大強化を狙っているのです。敵基地攻撃能力の保有は、専守防衛原則を破壊し、先制攻撃に行きつかざるを得ません。大軍拡により自衛隊は、自衛力整備段階から攻撃力強化段階に進みます。それは中国との戦争準備に外なりません。

敵基地攻撃能力は沖縄－南西地域に集中的に配備され、辺野古基地やミサイル基地建設が強行さ

れています。これらは自衛隊が、対中国対決の第1線に立つことに外ならず、沖縄－南西地域は戦場と化します。安保法制により集団的自衛権行使に道が開かれ日米軍事一体化した本土も戦争に巻き込まれます。こうした大軍拡の動きの集大成が9条改憲です。

武力で平和はつくれないということを核とした憲法9条を守り、9条を生かして対話外交を進めましょう。そして、アジアの平和をつくり出しましょう！

## 壁は叩けば扉となる！

### つないだ手をはなさない

朝鮮高級学校無償化を求める連絡会・大阪

事務局長 長崎由美子

今年こそ、朝鮮学校への理不尽な差別を廃止させなければなりません。2021年は全国で起こした朝鮮学校無償化裁判が、すべて最高裁で棄却される悔しい年でした。唯一、大阪が勝利した朝鮮学校高校無償化地裁判決を高裁が覆し、そして最高裁が棄却しました。司法はもはや権力の番犬であり、法の番人ではありません。そして安倍、菅、岸田政権は過去の植民地支配と侵略戦争を消し去る政策に、朝鮮学校が歴史の生きた証人として存在し歴史の嘘を許さないからこそ、政権による朝鮮学校への差別と弾圧は激しいのです。



大阪府庁前での朝鮮学校補助金再開と高校無償化を求める火曜日行動は、2012年4月17日から始まり452回を数えました。司法での闘争は敗訴でしたが、毎週集まる仲間の絆と信頼はゆるぎません。フェイスブックを見たからと奈良、京都、東京からも参加があり、毎回40名以上の日本人、朝鮮学校の関係者が参加してリレートークをします。「大人が子どもの夢と希望を奪わない！」この一点で様々な立場の人間が手をつなぎあい認め合う場所です。

当事者であるオモニ(母)やアボジ(父)、教

員、生徒の訴えは、いつも胸に熱く重く響きます。

モンダンヨンピルをはじめとする韓国からの支援はいつも私たちの支えです。南北平和財団からは500万円を越える支援が贈られ続けています。

朝鮮学校が南北の架け橋であり、民族の魂を育てる学校であると韓国の同胞から暖かい励ましを頂き感謝です。

## 日韓労働者・民衆の熱き抱擁をめざして 韓国サンケン労組を支援する 大阪市民の会代表 濱本満夫

新年あけましておめでとうございます。

サンケン電気は1973年、朴正熙軍事独裁政権の庇護のもと、馬山自由貿易地域に進出し多くの優遇と税制措置を受けながら、50年近くにわたって韓国労働者への搾取と収奪を繰り返し、膨大な利益を上げ、日本に還流してきた企業です。

1996年、民主労総加入以後、開始された組合弾圧とリストラ合理化攻撃で、600人の社員に対して566人にも及ぶ人員整理が行なわれました。

1996年、民主労総加入以後、開始された組合弾圧とリストラ合理化攻撃で、600人の社員に対して566人にも及ぶ人員整理が行なわれました。



その中で2016年、全員解雇攻撃を200日以上にわたる「日本遠征闘争」に勝利して整理解雇を撤回させ、原職復帰を勝ち取りました。

ところが前日まで韓国サンケン電気の当局と韓国サンケン労組が労使協儀を行なった翌日の昨年7月9日、サンケン電気本社はホームページにおいて、本年1月20日をもって韓国サンケンの会社清算—労働者全員解雇を発表しました。

コロナ禍の状況を利用した今回の会社清算—全員解雇は「日本遠征闘争」ができないことを狙った、まさに組合潰しであり、会社もろとも潰す攻撃です。このような食い逃げ企業がグローバル企業を名乗る資格などありません。

働く者を、あたかもボロ雑巾のように捨て去り、一片の話し合いもせず、1月の極寒の中、路上に放り出したのです。まさに植民地時代の日帝のやり方とどこが違うのでしょうか。

私たち大阪市民の会は日韓闘争を闘う仲間とともに、一昨年11月より昨年末まで30回のサンケン電気大阪支店(梅田)への抗議行動を、おおさかユニオンネットワークと共に闘ってきました。

5月の慶南地労委と9月韓国中労委からの「和解勧告」受け入れと韓国サンケン労組との「話し合い」を求めて引き続き闘っていきます。

支援、連帯を、よろしくお願いいたします。  
闘争！

### 活動報告 サンケン大阪支社抗議行動

不当解雇撤回を求めて、韓国で闘っている韓国サンケン労組を支援・連帯する「韓国サンケン労組を支援する大阪市民の会」の主催で12月22日(水)サンケン電気大阪支社抗議行動が行われた。今回の抗議行動では、韓国サンケン労組から届いた「단결(団結)・투쟁(闘争)」と書かれた赤い鉢巻を参加者全員がまいて行動が始まった。

抗議行動では初めに韓国労働歌がスピーカーを通じて流され、参加者を鼓舞した後、各団体・個人から、サンケン大阪支社への抗議とアピールを通じて「サンケン電気は厳しい冬を迎えながらも、自らを信じて闘っている労組員たちの気持ちがわからないのか。不当解雇を直ちに撤回しろ」「最近、会社側は各労組員に金をちらつかせて、労組の切り崩しを行っている。会社側は不当な行為を止めろ」などが訴えられ、最後にシュプレヒコールを行い、2021年最後の抗議行動は終了した。



▲韓国から届いた鉢巻を巻いて記念写真

## 釜山から春川まで、涙をぬぐいながら映画に見入る人たちとの出会い —映画『私はチョソンサラムです』韓国上映会に参加して—

韓統連中央本部 事務長 金昌五(キム・チャンオ)

日本と韓国で自主上映が行われ、大きな反響を呼んでいるドキュメンタリー映画『私はチョソンサラムです』が、12月9日から韓国で劇場公開されることになった。それに伴い、金哲民(キム・チヨルミン)監督から招待を受け、12月2日から11日まで韓国を訪問することになった。新型コロナによる厳しい入国規制がある中で、いくつものハードルを越えて「2週間の隔離免除許可」を得て、いよいよ12月2日関西空港に向かっていくと金哲民監督から電話があった。「新型変異種オミクロンの発生に伴い、明日12月3日以降は2週間の隔離免除許可を得ている者も含めてすべて10日間隔離されることになりました」とのことだった。一日遅ければ韓国への出張を取りやめなければならないところだった。

強運にも恵まれ、予定通り12月2日午後2時に仁川空港に到着し、一日のみの検査隔離を経て、12月3日から公式日程が始まった。12月9日の劇場公開を前にして各地で試写会が行われていた。試写会を主催するのは「キョレハナ(民族は一つ)」「朝鮮学校とともに歩む市民の会」「北側オリニ(子どもたち)栄養パン工場」「全教祖(全国教職員労働組合)」「韓国進歩連帯」「進歩党」などの人たちだ。

最初に参加したのは12月3日、慶尚北道・大邱(テグ)の上映会だ。会館の会議室などを借りて行う自主上映とは異なり、劇場公開前の試写会はすべて一般の映画館で行うことになっており、私は初めて映画館で映画『私はチョソンサラムです』を見ることになった。ゆったりとした座席といい、スクリーンの大きさといい、音響の迫力といい、日本で経験した自主上映会とはまったく別物だった。映画を見ながら客席にも目を向けたが、身を乗り出してスクリーンに見入る人、涙をぬぐう人の姿に胸が打たれた。映画上映後、金哲民監督と私が紹介され、司会者の進行のもと約1時間にわたり「観客との対話」の時間がもたれた。とてもなごやかな雰囲気の中で、活発な質疑応答と

映画を見ての感想が語られた(「観客との対話」の内容は韓統連ニュースレター19号に掲載予定)。劇場近くで行われた打ち上げは大いに盛り上がり、気がつけば午前1時だった。こんなに遅くまで飲んだのは、いつ以来なのか思い出せないほどだった。



▲大邱上映会終了後の交流会

映画上映会の合間をぬって12月5日には、自主民主平和統一民族委員会のユーチューブ生放送「民族委が会う」に出演した。金哲民監督とともに出演した対談は、映画『私はチョソンサラムです』の音楽を担当したノレペ・ウリナラのペク・チャ氏の司会で1時間にわたって放送された(韓統連ニュースレター17号参照)。

12月6日には、慶尚南道・釜山(プサン)の上映会に参加した。折しもコロナ感染者が7千名を越えたということで、ワクチン接種完了・PCR検査陰性証明の確認などが厳格に適用されたため、会場まで来ながら映画を観られずに帰った人がいたのはとても残念だった。この日も「観客との対話」の時間がもたれたが、大邱上映会以上に多くの質問と意見が交わされ、



▲釜山上映会での記念写真

その内容は釜山在住の統一運動家、キム・グアンス政治学博士がインターネット新聞「民プラス」に紹介されている（韓統連ニュースレター17号参照）。

12月7日には、ドラマ『冬のソナタ』で有名な江原道・春川（チュンチョン）の上映会に参加した。江原道は唯一南北にまたがる広大な道（どう）で、北に近い鉄原（テョン）や東海（日本海）に近い江陵（カンヌン）などの遠方から片道2時間かけて映画を観に来た方が多数おられた。この日は、たまたま私の66歳の誕生日だったが、サプライズでバースデーケーキとプレゼントを用意してくださり、♪チュッカハムニダ・センイル（ハッピーバースデー・トゥーユー）・・・の大合唱で祝ってくださった。

12月8日には、京畿道・仁川（インチョン）の上映会に参加した。多くの若い学生たちが映画を楽しみにしていたが、コロナ感染者が急拡大したため参加できなくなったことをとても残念がっておられた。もちろん春川・仁川でも映画上映後に「観客との対話」が行われた。

12月9日、いよいよ劇場公開の日を迎えた。劇場公開はソウル10ヶ所、釜山5ヶ所をはじめ全国43ヶ所で行われるとのことだった。ソウル劇場公開初日に当たるこの日の「観客との対話」には、金哲民監督と私とともに、映画には出演していないが映画上映を応援する立場で、東京オリンピック柔道銅メダリストの安昌林（アン・チャンリム）選手がボランティアで出演してくれた。

今までの試写会とは異なり、劇場公開は一般の人が自らチケットを買って、自分の観たい映画を観るというものだ。ちょうど正月映画の『スパイダーマン』も上映されていて、果たして何人入ってくれるのか、金哲民監督はとてもやきもきしていた。韓国ではコロナによる規制で映画館の入場者数は客席の数にかかわらず100名以下に制限されていたが、ほぼ定員いっぱいの100名近い方が鑑賞してくれた。

それまでの試写会とは異なり観客のほとんどは20代の女性で、どうやら安昌林選手のファンが

大半を占めていたようだが「安昌林選手に会いたくて来たが、とてもいい映画を観ることができて良かった」との感想が多数寄せられていた。

この日で最後となった映画上映後の「観客との対話」。司会者に「最後に一言を」とマイクを向けられ、金哲民監督に感謝の言葉を贈った。「在日同胞に対する深い愛情と、祖国統一に対する情熱で、多くの人々に希望と勇気を与える映画『私はチョソンサラムです』を作ってくれた金哲民監督に、心から敬意と感謝の気持ちを伝えたいと思います。金哲民監督、本当にありがとう」。



▲ソウル上映会で観客と対話をする

金昌五事務長(左側二人目)と安昌林氏(左側三人目)

釜山から春川、そしてソウルの劇場公開まで、映画『私はチョソンサラムです』の韓国上映会で、多くの国内同胞と出会えたかけがえのない日々だった。

映画『私はチョソンサラムです』の劇場公開は1月上旬までの予定で、その後はインターネットで有料配信される予定だという。

<お知らせ>

韓統連中央本部では「韓統連ニュースレター」を発行しています。「韓統連ニュースレター」の配信をご希望の方は [chuo@korea-htr.org](mailto:chuo@korea-htr.org) までご連絡ください。メールにお名前をご記入の上、件名に「韓統連ニュースレター配信希望」とお書きください。受信料は無料です。

## 【書評】

## 『生きるということ 金承鉦作品集』

金承鉦(キム・スンオク)著  
三一書房・1800円+税

「あまり小説は読みませんねえ」と言われることがある。すると小説を書く私は「ふーむう」となる。とはいえ小説は書かれ、読まれ続けている。なぜだろう？ 岡真理は「小説それ自体は現実を変えはしない。(中略)小説を読んだ私たちは想像することができる、彼、そして彼女が私たちの友人であり兄弟であり姉妹として傍らにあるような未来を。(中略)それはもしかしたら、この世界のありようそれ自体が変わるための、ささやかな、しかし、大切な一歩かもしれない(『アラブ、祈りとしての文学』みすず書房)」と指摘している。

本書には金承鉦の1963年から半世紀にわたる期間に発表され掌編(しょうへん：ごく短い文学作品)小説19編とエッセイ編が収録されている。著者は1941年に大阪に生まれ45年に帰国。つまり、ハングルを母語とし、ソウル大学在学中に4・19革命に参加した世代の作家である。1962年の文壇デビューの翌年発表された巻頭の掌編は、4・19のデモで銃に撃たれた大学生が搬送先の病院で、自分よりも先に高校生に輸血して欲しいと頼み、絶命してしまう物語だ。その題名を「正直者たちの月」としたのは軍事クーデターに踏みにじられ、4月を讃えるためであることは明らかだ。こうした精神は伏流し、80年5月光州、87年6月民主抗争、そしてろ



うそく革命にあふれだしたことを想起したい。

民主と独裁が絶えまなく抗争した韓国現代史の渦中であって、人びとは夫婦や家族の情愛を絆にして、ささやかな幸せを求めた。「夕食」は会社を首になった女性が、男性上司の下心を巧みにあやつり、豪華な食事をせしめる話。それは結局ばれるのだが……。あるいは大家の眼を気にせず夫婦で風呂に入る夢を独湯・大衆湯で実現する「暮らしを楽しむ心」などは、まだまだ貧しかった韓国社会をユーモアと悲哀を込めた練達の筆で表現している。表題作の「生きるということ」は、経済犯として服役している夫の存在を隠して未亡人と偽っていた女性と不倫関係となり、3年のあいだ彼女と4人の子どもの暮らしを支えた男性が、出所した彼女の夫から感謝されるという話。

読者はこの物語を女性、不倫関係の男性、出所した夫、それぞれの立場から、そして読者の感受性で自由に解釈すればよい。本書に収録された掌編小説たちには、そうした自由を保証する普遍性がある。小説を読む楽しみを、本書の掌編小説で存分に味わってもらいたい。

同じ作家の短編集として『ソウル1964年冬(三一書房)』がある。「韓国短編小説の礎石となった」(本書解説より)と評価される「霧津(ムジン)紀行」も収録されている。あわせて読まれることをお薦めする。(黄英治)

## 簡単ピザ作り会

日時：1月23日(日) 午前10時～午後2時

場所：東成区民センター調理実習室

(地下鉄今里駅2番出口から西へ徒歩3分)

参加費：1500円(材料費など)

持参する物：エプロン・ハンドタオル

主催：韓統連大阪本部 TEL090-3822-5723(崔)



